

会 議 録

会議名 (審議会等名)	川西市環境審議会		
事務局	美化環境部美化環境室環境創造課 内線(2930)		
開催日時	平成26年3月24日(月)14時00分～16時10分		
開催場所	市役所 7階 大会議室		
出席者	委員	木下委員(会長)・井口委員・武田委員・西村委員・横谷委員・河野委員・中本委員・信田委員・津田委員・大崎委員・樋口委員・的場委員	
	事務局	美化環境室長:空田 功・環境創造課長:仲下 道則 環境創造課主査:柳本 一志 里と水辺研究所:赤松	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	議 事 (1)会長、副会長の選出について (2)生物多様性かわにし戦略の策定状況の報告について		
会議結果	詳細は審議経過のとおり		

審議経過

事務局 : <開会宣言>
<委員自己紹介>
<事務局自己紹介>

事務局 : それでは、議事に入ります。

なお、会長、副会長が決まるまでの間、事務局が進行を務めさせていただきますので、ご了承願います。

議題1 会長、副会長の選任に入らせて頂きます。

本審議会は今年1月から新たな任期に入っておりまして、会長、副会長が空席となっております。川西市環境審議会規則第2条では、「審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。」となっております。これについて、委員の皆様から何かご意見いただけませんかでしょうか。

委員 : 木下委員に会長をお願いしたいと思います。

事務局 : 木下委員を会長に推す声がありました。皆様、ご異議ありませんでしょうか。

(異議なしの声)

事務局 : 異議なしと認めます。それでは、会長は木下委員をお願いしたいと思います。木下委員よろしくお願います。

続きまして、副会長の選任をさせていただきます。委員の皆様、ご意見ございますでしょうか。

委員 : 会長に一任してはいかがでしょうか。

事務局 : 会長一任との声がありました。皆様よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

事務局 : それでは、木下会長にお任せしたいと思います。

会長 : 私としては、中野委員をお願いしたいと思います。

事務局 : 会長から中野委員を副会長にという意見ですが、委員の皆様よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

事務局 : 異議なしと認めます。それでは、副会長は中野委員をお願いしたいと思います。

それでは、議事の1、会長、副会長の選任については、会長は木下委員、副会長は中野委員で決定させていただきます。

木下委員には会長席に移動いただき、ご挨拶をいただきたいと思ひます。

(木下会長 あいさつ)

事務局 : ここからの議事の進行は会長より行っていただきたいと思ひます。会長よろしくお願ひします。

会 長 : それでは、本日の議題の2「生物多様性かわにし戦略の策定状況の報告」に入ります。これにつきましては、前回の審議会でも市長より諮問を受け、議論しました結果、当審議会の下に生物多様性かわにし戦略策定専門部会を設けること、また、その策定に際しては、生物多様性に詳しい委託業者と契約し、その支援を受けながら、専門部会で議論を進めていくことなどの方針を決定しました。また、その専門部会には、生物多様性に造詣が深

いと理由で、当審議会から私と中野委員、それと服部元委員が参加するという事まで決定していたかと思えます。それでは、この件について、その後、どのような状況となっているのか、まずは事務局より、専門部会員の委嘱や、委託業者の選定状況などについて、報告を受けたいと思えます。では、事務局、よろしくお願いします。

事務局 : はい。それでは、生物多様性かわにし戦略策定に係るおおまかな経緯につきまして、事務局よりご説明申し上げます。

先ほど木下会長から話がありましたとおり、去る5月29日の審議会におきまして、市長より当審議会に「生物多様性地域戦略の策定について」という諮問をさせていただきました。この諮問書につきましては、資料として添付しておりますので、ご参照ください。この諮問を受けまして、前回の審議会におきまして議論しました結果、この戦略策定は専門的な事項となるため、本審議会の下に、生物多様性かわにし戦略策定専門部会を設置し、そこに生物多様性に詳しい委員を集めて、議論を行って戦略案を策定し、本審議会でご報告を受けるといった策定の流れを決めさせていただいたところです。

それでは、まず、専門部会の組織に関しましてご報告いたします。資料1をご覧ください。当初の事務局案では部会員13名での専門部会を提案させていただきましたが、前回の審議会での議論の中で、産業界からも部会員を選ぶべきであるのご意見を頂戴しましたので、当初の案から産業界関係者を2名(能勢電鉄さんと、農業関係者の2名)を加えました計15名にさせていただいて、資料1のとおり生物多様性かわにし戦略策定専門部会を組織いたしました。

また、同じく前回の審議会におきまして、生物多様性かわにし戦略の作成を補助するべく生物多様性に専門的な知識を有する業者をプロポーザル方式にて選定いたしまして、戦略作成支援の業務委託をさせていただきますとご提案いたしまして、ご了承いただきましたところですが、これにつきましては、生物多様性に詳しい業者を7社選定いたしまして、8月7日にプロポーザルの参加依頼の要請をさせていただきましたところ、4社から参加の申し出があり、その4社の企画提案を審査いたしました結果、先ほどご挨拶申し上げました株式会社里と水辺研究所に決定いたしましたところです。なお、株式会社里と水辺研究所とは、9月30日付で契約を交わしており、平成27年3月31日までの期間の契約となっております。

その後、事務局と里と水辺研究所さんとで打ち合わせを重ねまして資料を作成し、12月18日に第1回生物多様性かわにし戦略策定専門部会を、その後、2月13日に第2回生物多様性かわにし戦略策定専門部会を開催いたしております。

専門部会での議論内容につきましては、資料2から資料6までにまとめさせていただいている次第ですが、この専門部会での議論内容につきましては、専門部会の部会長に就任いただいております木下先生より、ご説明いただきたいと思います。木下先生、よろしくお願いします。

会 長 : それでは、生物多様性かわにし戦略の策定状況について、報告します。

生物多様性かわにし戦略策定専門部会は昨年12月と今年2月の計2回開催しております。メンバーは資料1にあるとおりで、フォーマルというよりはざっくばらんに議論を進めました。内容は大まかに申しますと、第1回専門部会においては、生物多様性かわにし戦略の構成案及び第1章生物多様性かわにし戦略の策定の目的と位置づけについて議論し、第2回専門部会においては、第1回の議論を踏まえて、第1章の内容を修正すると

ともに、第2章以降に向けて、市民の意識調査を実施するために、市民アンケートの実施計画案について議論しました。

それでは、議論の内容について説明します。

なお、本日提出しています資料につきましては、これまでの専門部会で検討した資料をそのまま提出しているものもあり、今後表記等の修正をする場合がありますので、内容を中心に議論いただければ助かります。

資料2をご覧ください。

こちらが専門部会での議論の結果まとめました生物多様性かわにし戦略の構成案です。他都市の生物多様性戦略等を参考に、大きく5章に分けた構成としたものです。

続きまして、各章の内容についてご説明いたします。

資料3をご覧ください。こちらが、構成案に基づいて作成した「第1章生物多様性かわにし戦略策定の目的と位置づけ」及び第2章の一部の文案です。

これらの構成案や各章の内容に作成するに際しては、部会員の皆様から、「生物多様性かわにし戦略の目的を明確にする必要がある」とか「キャッチフレーズなどを用い、できるだけ市民がわかりやすい内容とすべきである」とか「身近な事例を交えて記載するほうがよい」、「ふるさとかわにしの良さを伝えることが重要である」などの意見を頂戴しております。これらの意見を踏まえまして、第1章の冒頭に「1 生物多様性について」という項目を設け、生物多様性という用語をできるだけわかりやすく解説しております。生物多様性をわかりやすくするキャッチフレーズとしまして、金子みすゞさんの～みんなちがって みんないい～という言葉を用い、小中学生でもわかりやすい文面に努めております。生物多様性という言葉自体が難しく、何をしたらいいのかがよくわからない面がありますが、服部先生がいろいろご意見をくださいました。つまり生物が気候や環境の変化で激減するようなことが過去にあって、それが現在でも進んでいて、なんとか手をうたないと地球上の生物はいなくなってしまうだろうということでもあります。そのような危機感から多様性を保持しようという運動が始まったのですが、始まってみると単に数を増やせばいいというわけではなく、生物同士のつながり、あるいは生物と人間とのつながりを大事にしようという、つながりというものが強調されてきました。流れとしては、そんな感じで、この第1章でも、「個性」と「つながり」が生物多様性であるといえと記載しており、「つながり」というのは、生き物間の食べる - 食べられるといった関係から見た食物連鎖だけではなく、人とのつながりにおいても、大事にしていこうということになっています。

それに続きまして、生物多様性の大切さ、生物多様性の課題を、川西市の実例なども交えながら記載しております。なぜ生物多様性がそんなに重要なのかを4つほど例を挙げて記載しています。すべての生命の基礎となっている、人間にとって有用な価値をもっている、豊かな文化の根源となっている、将来にわたって安全な暮らしを保証していることです。また、5ページ目に生物多様性の課題を説明しており生物多様性を脅かす危機として、4つ挙げています。第1の危機：開発など人間活動による危機、第2の危機：人間の自然に対する働きかけが減少したことによる危機、第3の危機：人間により持ち込まれた外来種などの影響による危機、第4の危機：地球温暖化や海洋酸性化など、地球規模での環境の変化による危機です。

その次に2としまして、6ページに川西市において生物多様性地域戦略を作成する目的という項目を設けております。これは、「生物多様性かわにし戦略の目的をはっきりと明

確にする必要がある」との部会員の意見を受けて設けていますもので、この部分は今後、もう少し議論を深めて、詳しく記載していく方針です。

続きまして、「3 策定の背景と位置づけ」について、7ページ8ページに歴史的な流れなどを記載しています。

また、9ページ以降に「第2章 川西市の生物多様性の現状と課題」に関する文案を記載しています。この部分は、まだこれから精査と議論を進めていく必要がありますが、現時点で、9ページから12ページにあるような内容でまとめております。また、これに関連しまして、別添で資料6という資料をお配りしています。ここには、川西市の重要な生態系・特徴的な自然環境のマップ、調査票及びその他の環境情報を記載しております。

次に、主に第2回の専門部会で議論しました生物多様性かわにし戦略にかかる市民意識調査実施計画案について報告いたします。

資料4をご覧ください。

こちらが、市民意識調査実施計画の概要です。実施する目的は生物多様性、川西の自然環境についての市民の認知度、意識の情報を把握し、かわにし戦略の保全対象、目標設置や行動計画に活用するというものです。実施の方法としましては、10、20、30、40、50、60才以上の6階層から男女それぞれ100人(合計1,200人)を住基データより無作為に抽出し、郵送にてアンケート用紙を送付、回収しようとするものです。実施時期は4月下旬から5月頃を目途にしています。工夫点としては、各設問において、設問の「意図」として目的や活用法を記載したり、できるだけ川西市の実態に即した設問とし、かわにし戦略へ活用できるようにしています。また、アンケートの資料にA4版でカラー印刷した「川西市の生物多様性を育むすばらしい自然」を入れて送付することにより、アンケートに回答しながら川西市の自然を認知してもらえるようにしています。

また他市のアンケートの状況は記載していますとおりです。

アンケートの内容につきましては、次ページ以降に記載しておりますとおりです。

なお、このアンケートの案につきましては、専門部会に提案されたときのままであり、第2回の専門部会において、この案をもとに議論を行い、部会員の皆様から、多様な意見をいただいております。全体を通して、もう少し回答者の立場に立って、答えやすい工夫をすべきという意見であり、例えば、「分量が少し多すぎるのではないか。」とか「最初の設問はよく読んでくれるので、答えやすい身近な内容を入れて、最後まで答えてくれる確率が高くする工夫が必要」あるいは、「最初に難しいことや、否定的な問いがくると、全体の回答も悪くなるので、最初にメジャーなことや肯定的なことを聞くほうが良いと思う。」、「選択肢の並びで、「できない」という選択肢が左に(最初に)来ていることが良いのか、よく考える必要がある。」などの意見が出たので、今後、これらの意見を踏まえて、アンケート案を最終調整したうえで、実施したいと考えています。

以上が、第1回と第2回の専門部会で議論した内容及び結果の概要です。

最後に、資料5にありますような工程で、来年度に生物多様性かわにし戦略案を策定し、本審議会に報告を行う予定としております。

以上で、現時点での生物多様性かわにし戦略の策定状況の報告を終わります。

それでは、ただいまご説明いたしました内容につきまして、委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。

みなさま、よろしくお願いいたします。

委員 : 3章～5章はこれからということでしょうか。

会長 : そうです。3章以降はまだ議論を行っていません。事務局、3～5章の今後の進め方はどうなりますか。

事務局 : 2章を6月の専門部会で議論して、3～5章は夏頃に作成して、10月に開催予定の専門部会に提出を行う予定です。しかし、6月の議論の進め方によっては、夏頃にもう一度専門部会を開催して、3～5章の議論を行うことも検討しています。

委員 : 年度末に冊子を作成することが最終目標ですか。それとも、それに基づいて次年度以降、行動を起こすことが目標ですか。

事務局 : 戦略の策定は年度末の冊子を作成することが目標ですが、最終的には、戦略に基づいて、次年度以降に施策を行うことが最終的な目標です。

委員 : アンケートはすごくわかりやすくいいものだと思うので、回収率をできるだけ高くするようにしないといけないと思います。あと、アンケート対象者の地域性についてはどのようにお考えですか。

会長 : 専門部会でも地域については議論しておりまして、無作為にすると都市部が多くなる傾向にはあると思いますが、あまり操作すると無差別性が失われてしまうので、無作為に選ぶのは基本として、そこに重要な地域を少し加えるかたちなどを検討しています。また、回収率については、難しい問題ですが、事務局、何か名案はありますか。

事務局 : 回収率に関しては、専門部会でもいろいろ議論がありましたが、回収率を直接あげれるような名案は今のところありません。

委員 : このような内容をやさしく市民に啓発するようなもっと具体的な案というのはいないのでしょうか。

会長 : 具体的な案とはどういうことでしょうか。

委員 : 教育的な内容ですね。

会長 : 学校で何かするというのでしょうか。

委員 : そうです。小中高校で、こういう教育をして、家庭にそれを持ち帰るといったような教育的な内容が大変重要だと思います。

会長 : 当初の案では、アンケートを小学校6年生に配ろうかという案もあったのですが、議論の結果、現行の案となっています。

委員 : 今の環境に関する市民の意識を調査するには、何も協議しないで行う方がいいとは思っています。ただ、来年度以降に行動を起こすことが最終目標である考えると、教育に力を入れるのも一つの視点ではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

会長 : この点についても専門部会で議論がありまして、副読本やパンフレットを作ってみてはどうかという意見もありました。来年度以降の行動の中で教育というところに持ち込んでいくことになると思います。

委員 : わかりました。

委員 : 外来種についてですが、ヌートリアやミドリガメが多くいることは普通の自然の状態ではないと思うのですが、これらの種類については捕獲して、消していく方向なのでしょうか。また、外来の植物については、普通の人にはどれが外来種かわからなくなっています。子供たちにとっては、小さいころからあった植物が外来種だということで除草されてしまったら、その子供たちにとっては自然が消滅したことになるのではないのでしょうか。また、いなくなった日本古来の植物を復活させるということは、そこにある地域の自然の現状を、ある意

味では壊すということにもつながりますが、このようなことはどう考えればよろしいでしょうか。

会 長 :とてもいい問題提起で、答えにくいところもありますが、専門家から答えてもらいたいと思います。

事務局 :専門部会でも少し議論が出た内容で、外来種が悪いという一方で、生き物の個性を大事にしましょうという、その矛盾については、きちんと説明しないといけないと思っています。外来の対象種については、環境省で特定外来生物というのが定められていますので、その中で種の絞り込みを行ったうえで、今後の議論の中で、対応していきたいと思っています。

委 員 :種の絞り込みなどいろいろ難しいとは思いますが、これからの問題ということで理解させていただきます。

委 員 :外来生物すべてが悪いわけではなくて、例えばミシシッピアカミミガメとかブラックバスなどは、在来の生物を駆逐してしまいますので、侵略的外来生物といいまして、これは排除しないといけないと思います。植物でも、特に水草系などで池を一面覆ってしまう種類など、他の生物を侵略してしまうものは排除したほうが良いと思います。この他に外来生物ではないですが、鹿の問題もあります。鹿は林の下の植物を食べてしまうので、被害があります。川西はまだそんなに被害はないですが、事前に対策を考えないといけないので、戦略に入れてほしいと思います。

会 長 :鹿については、専門部会でも同じような意見がありました。

委 員 :生物の多様性を保持するということですが、いつの時代をモデルとするのかというのをはっきりさせておく必要があると思います。

委 員 :いつの時代に戻すというよりは、これからどういう風に考えるかが大事であって、今の環境を悪化させないで、残していくというのが生物多様性の保全につながると思います。

委 員 :おっしゃられることはわかるのですが、環境自体が変化、進歩していくものなので、その辺との兼ね合いも考える必要があると思います。

会 長 :専門部会の方でも、生物多様性と開発とのからみなども議論した経緯もあり、難しい問題だと思います。

委 員 :生物多様性にどのような価値を見出すかが問題だと思います。専門部会で具体的な数値目標などの議論はされたのでしょうか。

会 長 :そこまでの議論は行っていません。

委 員 :資料3の6ページに川西市において生物多様性戦略を策定する目的というのがあるのですが、そこに川西市における生物多様性の実態や課題を認識してもらうとあるのですが、認識してもらうときには課題も大事ですが、自分の市の自然環境に誇り、ふるさと意識というようなものを持ってもらうことが大事だと思うのですが、いかがでしょうか。

会 長 :まさに、おっしゃるとおりで、専門部会でも、川西らしさがわかる目的を設定してほしいという意見が出ていますので、そうすべきだと考えています。

委 員 :そのように気付くことで、いい方向に歯車が回ってくれればと思っています。そういう意味では、アンケート調査で、ぜひとも10代20代の回収率が高いことを期待しています。

委 員 :生物多様性が進んだとか減ったとかは、どのように評価するのでしょうか。

会 長 :生物多様性もいろいろなレベルがあり、例えば、種類数が一番簡単な指標ですが、もっと複雑な、例えば生物間のつながりをどう評価するのかというのは、事務局どう考えたらいい

のでしょうか。

事務局 : 生物多様性を図る指数というのはあるのですが、この戦略ではそういう数値を使うよりは、例えば、今、川西に貴重な生物が50種類いるとして、これをなくさない減らさないようにして、何年後かにどれくらい残っているかというのがわかりやすい指標だと思います。

会 長 : 私も生物多様性の一般的な数学的な指数を使うよりは、川西市として注目するような生物を決めて、その数で評価するのがいいと思っています。

委 員 : 全部調べるのは難しいので、指標種を決めて調べればいいと思います。例えばオオタカは食物連鎖の頂点にいますので、これを支えようと思うと下にかなりの生物がいないと支えられないのでわかりやすいと思います。他に環境の変化に敏感な生物を抽出して調査すれば変化がわかると思います。植物群落の場合は場所を定めて、そこを何年か毎に調査すれば、種類数とか林の構造とかがわかると思います。

委 員 : 日本一の里山が川西の北部にあるのですが、南部や能勢口駅周辺の人あまり行く機会がないと思います。日本の有数の里山というのは他にどこがあるのでしょうか。

事務局 : 川西の里山が日本一と言われているのは今でも使われているからです。ただ切っているだけではなく、切った後に炭にしているというのが、今でも残っているのがすばらしいことです。似たような炭の産地は、千葉県佐倉市にあたり、台場クヌギの産地は山梨県にあたり、他にも有名は雑木林は関東の方にありますが、そこはもう使われていないので、川西市が日本一といわれる所以はそこにあります。

委 員 : ありがとうございます。川西の里山が日本一というのは聞いていたのですが、その理由を知らなかったのが、今日、初めて聞きまして、ぜひ学校関係にも教えていただきたいと思います。

会 長 : こういう生物多様性というものを機会に、川西の自然をもっと知ることができると思います。

委 員 : 川西の小学校の校歌にはだいたい山と川が詠われています。私は年に1度猪名川で生き物の調査をしています。そこでは、50年前に比べると、3割くらい種類が減っている。子供たちをそこに連れて行くと、なぜこんな素晴らしいところで勉強をさせてくれないのかという意見をもらう。この戦略を読んで思うのは、里山のことは多く出ているが、河川の生態系についての内容も必要だと思います。昨年武庫川で生き物調査をしましたが、猪名川より3割多いです。武庫川の方が人口密度が少ないので、人間の影響が生態系に大きく影響していると思います。最終目標は人間の生活が生態系にどれだけ影響を与えるかを知らしめるのが大事だと思います。大人は川が汚いというが、子供たちは自然の中で遊びたいと思います。アンケートの中にも、そういう文面を考慮していただきたい。川西の自然を知ってもらえるようなアンケート内容をご検討いただきたいと思います。

会 長 : 専門部会の議論の中でも、里山と並んで、猪名川の重要性も取り上げていますのでこれからもそういう方向で進んでいくと思います。

事務局 : アンケートの中に、別紙として川西市の生物多様性を育むすばらしい自然というのを入れていますので、この資料を用いて、各種の自然環境の認識度を把握するとともに、市民のみなさまに自然を周知したいと思っています。

委 員 : 猪名川の水質については日本国内ではワースト3の評価です。これは川西市域外のもっと下流域での観測ポイントの数値が悪いということではありますが、今の内容・議論ではいいことばかり出ているので、実際には猪名川の水質は毎年悪いんだという、マイナスの部分からの意識づくり、アプローチも必要だと思います。

委員：川西市域の猪名川のBODは0.9くらいです。尼崎の戸倉が9になっていて、それを観測ポイントの3で割ると3になって、全国的に高い数値になります。でも実際、川に入った子供たちはきれいだといっています。戸倉までは、魚もたくさんいます。

私の調査でも、生物の種類はたくさん取れています。つまり、猪名川の観測ポイントの問題であって、これについては国土交通省に改善を要求していますが、河川法上いろいろ問題があって難しいようです。猪名川の戸倉までは全国的にみてもきれいな川です。

会長：川がきれい、汚いというのは一言ではいべき問題ではないようです。どの部分がどういう状態かというのが重要で、川西市域を流れる状態での評価をするべきですね。

委員：猪名川は上流は県が管理していて、滝山から下は国交省が管理していますね。環境の話を発信する時は、県と国交省とでよく協議してもらいたいと思います。このままでは、環境問題を学校で教育するのが大変難しくなると思います。

委員：河川の評価するポイントというのは水系ごとに決めていて、たまたま猪名川については戸倉橋がポイントになっています。そこは大型の下水処理場が近くにあって、そこからの放流水のほうが河川の本流よりも多いくらいなので、かたちの上では数値が悪くなっているわけですが、そこから上流ではきれいな水系であります。

委員：そういう内容をもっと発表してもらいたい。

委員：発表はしているのですが、悪いイメージばかりがでてしまってますね。

委員：そういう内容は承知しているのですが、ワーストという報道が周知されているのも事実です。川西という市の名称に川が入っていて、その川とは猪名川のことです。その猪名川がワーストというのは、川西市にとって恥ずかしいことだと思います。

私は猪名川のクリーンアップに参加していますが、すごいゴミの量です。アンケートの中にも清掃とか美化という視点が盛り込まれていますが、汚いというよりも厳しい評価をされているという視点もアンケートに盛り込むべきで、ごみの問題についても意識を高めるような側面を出す必要があると思います。もしくは、生物多様性の戦略を進めていく中で、市の施策として美化推進的なことを同時発信的に行うというような内容を戦略に盛り込むのほうがいいと思うのですが、いずれにしてもそういう視点を外してはいけないと思います。

会長：美化推進の観点でいうと、身近なところで行う範囲で行うことが生物多様性につながるという議論がありまして、そういう内容はアンケートに取り込まれていると思うのですが、そうではないというお考えでしょうか。

委員：生物多様性イコール美化推進の問題になってしまっただけは、少し違うのですが、自然を維持していくのに、美化推進の観点というのは基盤になる考えだと思っています。このアンケートはよくまとまっていて、生物多様性と美化推進の問題が、総合的にうまく盛り込まれているとは考えていますが、それでいいのかという問いかけであって、生物多様性かわにし戦略策定の中で、美化推進の観点を大きく取り上げているのか、そうではなくて、美化推進は別の市の施策の中で行うものであるというならば、純粋に生物多様性の問題に取り組む必要があるわけで、そのあたりのバランスはどのように考えてこられたのかお聞きしたいのです。

会長：具体的にはまだ議論していませんが、ただ、他の市を参考にするなどして重要なポイントを検討してみると、ごみやペットの問題など、身近なことが、戦略の重要な要素のなるとは考えています。それが全部ではないですが、里山の保全とか猪名川の水質とかそういう問題に加えて、我々は具体的に何をやるのかということも大事であると考えています。

委員 : 川西独特の生物、それを追跡していけばいいような生物を専門家の方だけではなくて、市民のウォッチングを増やしていくような発想は持てないでしょうか。それはすぐには難しいかもしれませんが、どこかでアンケートとは違ったかたちで、生物多様性などに関する川西の課題などをアピールする機会を、もっと違った切り口で発信していくことが、それが市民のウォッチングと連動すると思うのですが、そのあたりの話は出てましたでしょうか。

会長 : 切り口とはどういうことでしょうか。

委員 : 川西が日本一の里山であるということは広報されていることは知っているのですが市民にはそれほど周知されていないような気がします。ここまでまとまったアンケート、資料があるならば、アピールできるきっかけを持っていると思うんです。どこかで、川西市の良さをアピールする、どこかに託してやっていくというような構図があればうれしいのですが、そういう発想はないでしょうか。

会長 : アンケートではなくて、どこかで、前段階あるいは後で、なんらかのかたちで市民発信できないかということでしょうか。

委員 : そうです。

会長 : このアンケートや戦略を作っていく中で、何が重要で何が必要であるかがあぶりだされてくると思うのです。そういうのが市民にわかりやすいようなパンフレットみたいなかたちで出てくるとは思うのです。それをどう生かすかは、行政や市民の取り組み方の問題になると思います。

委員 : そういう専門の方々が集まって審議会や専門部会が動いているというところと、もう一方で市がもう少し発信していただければありがたいです。それと生物の個体数をもっとクローズアップして、地域でウォッチングしていく方向性をだしていただきたいのですが、いかがでしょうか。

会長 : そのウォッチングというのは、桜とかホタルと身近なものを観察しようということのようですが、どの場所にどんなものがあるかをご存じない方も多いと思うのです。それを理解するために、いろいろ、例えば、今回のようなアンケートを実施するわけです。この結果で、例えばいっぱいいるのにあまり知られていないような状況がわかれば、それをまとめたものが戦略になると思うのです。そういうかたちで文章的なものは出来上がると思います。それをどう生かしていくかは、ひとつは行政の問題であり、ひとつは市民の問題であると思います。地域がどう進んでいくかは、地域の方が決めることであって、それをアシストするのは行政になるのかもしれませんが、いずれにしても、ご質問のような方向に進んでいくように思います。

委員 : アンケートをどう生かしていくかが大きな部分であるとは思いますが。

会長 : 資料に載っている生物の個体数はもっと数があると思います。昆虫に関しても、加西市でそんな数字であるとか信じられないです。

委員 : 植物もそうですね。

会長 : 自分の身の回りの動物なり植物を探して、学校などで取り組むと面白いかもしれませんね。

委員 : アンケートについてですが、心に残っている原風景や遊びついでというところがありますが、川西市は他から流入して来られた方も多くいらっしゃいますので、これは川西限定なのか、それ以外でもいいのかははっきりした方がいいと思います。

会長 : なるほど、そうですね。これは川西以外でもいいんですよね。

事務局 : そうですね。ただ、先ほどからの話を伺っていると、ここは今、悪いからもっと良くしたい

のはどこですかというような質問にすれば、先ほどの委員の意見を含んだかたちになりますから、より良くなるのではないのでしょうか。

会 長 :問題になっているのはどこかという聞き方にしようというわけですね。わかりました。

委 員 :今後の専門部会での議論になると思うのですが、生物多様性をいろいろ進めていくと、一般市民からの情報の収集とか共有などをどのような体制で行うかが重要になってくるかと思うのですが、このあたりの考えはあるのでしょうか。

会 長 :まだ、そこまでの考えはないのですが、一般市民とか市民グループなどで活発に調査などをされておられますが、なかなか市がそれを把握して共有するのができてないようです。市民の活動をどう取り入れるかとか、情報をどう生かすかなどについて、何かいいアイデアはあるのでしょうか。

事務局 :策定の手順ですが、今の段階は1章2章で、川西市の自然環境の現状を把握しています。次に3章4章に進むにしたがって議論するのは、川西市のいろいろな施策の中で、生物多様性と結び付けれるものがあれば、戦略の施策としていきたいと思います。同時に他市の施策なども参考にして、足りないものがあれば新規に付け加えていけばいいと考えています。ですので、市民からの情報を共有するような施策がなければ作っていききたいと思います。

委 員 :宝塚市は以前に戦略を作っていて、今はもう少し実践的なガイドブックなどを作ろうとしているようですが、課題になっているのが情報の収集とか共有化の体制の問題のようです。伊丹市は昆虫館があって、そこに専門職員がいるので、核にしているようです。役所がすべてやるのは大変ですから、核になるところを活用すればうまくいくような気がします。

委 員 :神戸市はネットで情報を市民が入力できるようになっています。ただ、貴重種は公表するとまづいこともあるので、その情報は預かったりしてやっているようです。

会 長 :いろいろ議論いただきましたが、このあたりでよろしいでしょうか。アンケートについては、今のようなご意見の下で、実施していただければいいと思います。

このあたりで議論を終わりたいと思います。

最後の議事にその他とありますが、事務局何かありますでしょうか。

事務局 :特にありません。

会 長 :皆様、何かありますでしょうか。

ないようですので、これで閉会させていただきたいと思います。

今回は、11月頃に、専門部会でまとまった戦略の素案について議論したいと思います。

皆様、お疲れでした。